

ブルーベリー観光農園事業化 一つずつ品種を紹介

(株)ハマナコベリーズファーム・浜松市



「お気に入りの品種を見つけてほしい」と話す俊徳さん(左)、秀徳さん

【静岡支局】「いつでも高品質な商品を提供することを心がけている」と話す

のは、株式会社ハマナコベリーズファームの社長を務める三川俊徳さん(左)、秀徳さん(右)親子。浜松市でブルーベリー80アを栽培する。

約30品種を栽培し、6月から8月の間、観光農園で常に果実を提供する。摘み取り体験では、園内を案内しながら一つずつ品種を紹介。甘みや酸味の違いを基に、一人一人の好みに合っ

た品種を見つける手助けをする。

近隣の幼稚園では、農園を農業体験の場として活用する。「ブルーベリーは酸っぱいというイメージが定着している子供でも、農業体験を通じ『甘い』という印象を持ち、好きになってくれることもある」と俊徳さん。

全体の果実の約4分の1を浜松市の遠鉄ストア向けに出荷する。品質を保つために、一粒一粒丁寧に手摘みと選別を行っている。出

荷も全て手作業を徹底。大きさ、状態に厳しい基準を設けているため、全体の4分の1の果実を観光農園で提供する加工品の原料に回るといふ。秀徳さんは「良いものを食べてもらいたい気持ち強い。手で触れることで分かることがあり、機械には任せられない」と話す。

以前は建設会社を経営していたが、景気後退で受注に偏りが生じたため、俊徳さんが趣味で育てていたブルーベリーに着目した。建設の受注が減少した夏季に収穫できることから、ブルーベリーの観光農園を事業化。経営が軌道に乗り、同ファームを設立し、通年による栽培につながった。

秀徳さんは「農業では『おいしかった』など励みになる声をかけていただくことが多い。経営が苦しい時もあるが、言葉をかけてくれたお客さんの顔が浮かび、続けようと努力する糧になっている」と話している。(伊藤駿)